



## 「自殺対策全国民間ネットワーク」緊急会合！

去る9月4日（日）、岩手県盛岡市で、NPO法人ライフリンクが主催する「自殺対策全国民間ネットワーク」の緊急会合が開かれました。前日の9月3日（土）には、「北東北自殺予防民間団体等交流会」が開催され、当センターからはスタッフが両日出席しました。

会合には、北は北海道、南は宮崎県まで36団体、約50名の自死について取り組む民間団体が参加。「震災自殺を防ぐため いまわたしたちに何ができるのか」、「社会的包括ワンストップ事業について」そして「自殺総合対策大綱の改定について」の3点をテーマに、活発な意見交換がなされました。

その中でも特に印象に残ったのは、被災地である北東北の団体からの現地の実態報告と、被災者に対する社会的包摂ワンストップ相談事業の提言です。実態報告では、NPO法人いわて生活者サポートセンターから、岩手県野田村における官・民・大学が一体となった支援が報告され、NPO法人蜘蛛の糸からは、岩手県釜石市での経営者向け相談と秋田県に避難された方への支援が報告されました。ワンストップ事業については、これまでの被災地からの電話相談をさらに細分化し、専門化した（同行支援のフォローアップも行う）全国的な電話相談支援機能の構築案が提言されました。

今後も、当センターでは、他団体とのネットワークに積極的に関わり続け、より良い支援につなげていければと考えています。

（相談活動委員長 廣谷ゆみ子）

### 「自殺対策全国民間ネットワーク」とは？

自死について取り組む全国の民間団体で作る任意団体のことで、当センターのように相談を受けている団体や、当事者グループの運営をしている団体など、様々な団体で構成されています。個別に活動してきた団体が集まることによって、それぞれの団体の得意分野を活かし合い、互いの足りない部分を補い合いながら、情報収集や人材育成を協働して行い、自死についてに取り組む民間団体としての総合力を高め、民間の現場から当事者本位・現場本位の取り組みを牽引していくことを目的としています。

# 〈グリーフ〉を支えるって どういうこと？

大切な人を自死で失うというのは、とても大きなグリーフ（喪失体験）であることは容易に想像ができます。けれども、その実際の気持ちは、他者の想像を絶するものです。グリーフというのは、亡くしたものと結びつきが強ければ強いほど、またそれが予想外の突然の出来事であったりすれば、その衝撃と影響は、とても大きく、かつ深いものとなります。こうしたグリーフを体験した人にとっては、その深い悲しみが取り除かれ、苦しみがなくなったりと、終着点があるわけでもありません。そうはいつても、ほんのわずかであったり、ほんのひとときではあれ、それがやわらいだり、やすらいだりすることはあるのかもしれませんが。大切な人を自死で亡くした人たちを支えるには、いろいろな仕方があると思います。

そんななか、わたしたちにどのようなサポートができるかを考えることを目的に、8月27日（土）・28日（日）の二日間にわたって、およそ15名のボランティアが参加して、グリーフサポート委員会の研修とミーティングを行いました。研修の大きなテーマは、「グリーフを知る」「自分を知る」「分かち合いをつくる」というものでした。

研修のなかで、「グリーフを知る」ことを目的に、「グリーフってなんだろう？」「それを支えるって、どういうこと？」といったテーマを、みんなで話し合いました。けれども、「こうすればいい」という答えは、なかなか見つかりません。こうして考えていくなかで、人によって気持ちや求めるものはさまざまに違うことに思いを馳せつつ、他人にできることの限界を突きつけられたように感じました。

「自分を知る」ことをとおして、支援者は、つねに自分の精神状態をしっかりと見極める必要があると考えさせられました。

そして「分かち合い」をつくっていくため、まずそれをロールプレイで体験してみました。ここでは、一对一の電話相談との違いにとまどいを見せる人もいました。複数の方々の話と同じ輪の中で、代わる代わるに語られることを聴いていくことは、想像以上にたいへんです。参加者の多くは、「分かち合い」のファシリテーターの難しさを体感したようです。いかにファシリテーターがしっかりしていても、グループのなかで、傷ついたり、不快に感じたりする人は出てくるかもしれません。それでも、支援者としては、一人ひとりをしっかりフォローすることが大事だと感じました。

「分かち合い」は、これまでに多くの団体によって行われています。それらを参考にしながら、私たちは自分たちらしい「分かち合い」を作っていこうとしています。そして、その準備は万全でなければなりません。それは何よりもご遺族のことを思っていることです。ご遺族が、どんな気持ちであっても、それを安心して語ることができ、それを決して否定することなく聴く人がいる空間を作ることが望まれます。また、これまでにそうした場所に足を運ぶことのなかった人が安心して来ることができるような場所にしていくことが理想です。

12月には、その「分かち合い」を開催する予定ですが、安定的に継続していくために、今後は、研修のカリキュラムをしっかりと作って、スタッフの力を磨いていこうと思っています。

（グリーフサポート委員長 武田慶之）

## 〈新しい公共〉 ～住民参加が地域のエンパワメントをもたらす～

9月10日（土）に京都市北文化会館で、京都府・京都市・こころのカフェ きょうと（自死遺族サポートチーム）が主催する「自殺予防と自死遺族支援のための府民・市民公開シンポジウム 地域の絆～支えあう社会をめざして～」が開催されました。当センターはこの催しを後援していたため、当日は運営のお手伝いにスタッフが数名参加しました。会場には全国各地から大勢の方が来られ、各登壇者の声に耳を傾けていました。

基調講演は、秋田大学大学院教授の本橋豊氏。秋田県と京都府との比較による自死の現状の説明や、秋田県での自死についての取り組みの紹介がなされました。そこでは、民間団体の活動に注目し、「迅速で機動的な取り組みは民間団体だからこそ可能」として、専門家主導、行政主導の取り組みを超えた〈新しい公共（人々の支え合いと活気のある社会をつくることに向けたさまざまな当事者の自発的な協働の場）〉の重要性が示されました。

パネルディスカッションでは、社会福祉法人ミッションからしだね理事長の坂岡隆司氏、京都府こころの健康推進員の山田由利子氏、京都市左京区福祉協議会主事の大西一雄氏、こころのカフェ きょうと代表の石倉紘子氏がそれぞれの活動の報告をされました。さまざまな活動を知る中で、網の目をより細かくし、お互いの団体が連携をとって、必要な方に必要な情報や支援を届けることができるようになることが、京都の自死についての取り組みを考える上での重要な課題だということを実感しました。

当センターも〈新しい公共〉としての役割を意識し、他団体との連携をとりながら、より意味のある活動をしていきたいと思えます。

(N.Y)

### Sotto レビュー

#### 『アルルのゴッホ椅子』

フィンセント・ファン・ゴッホ

オランダの画家で「炎の画家」と呼ばれたフィンセント・ファン・ゴッホ。

彼が1888年2月から滞在していた南仏アルルでは、私たちがよく知る『ひまわり』を初めとする作品の数々が制作されました。『アルルのゴッホの椅子』もその時期の作品です。

画題は、彼自身が使用していた黄色の「椅子」です。椅子の上に置きざりにされたパイプが座っていた人の不在を象徴しているように見え、明るい色調ながらもどこことなく寂しい雰囲気を感じる作品です。

彼は、心の支えでもあり最大の支援者でもあった弟テオに送った手紙の中で「芸術家が座った椅子のみを描くことは、その芸術家の喪失なのだ」と述べていることから、そこに強い喪失感を表現しようとしていたことが伺えます。

明るい南仏の光の中で、景色とはうらはらな暗い気持ちを持ちつづけることは、本当に孤独なことだったのでしょうか。この画を見つめながら、そんなことを考えていると、胸が苦しくなります。

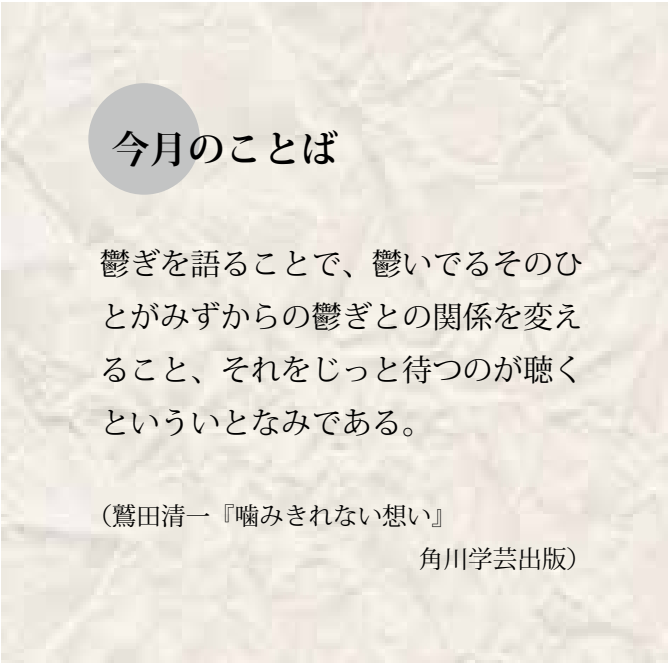
この作品から10ヶ月後、彼は自死により亡くなりました。世間にほとんど認められることもなく、病に苦しみ、人間関係に悩み抜きながらも、ときどきの気持ちを懸命に作品に込めて表現しつづけた彼の人生。その人生そのものが、遺された画を通して、今なお私たちの胸を打つのだと思えます。

(M)



## 活動報告

- 電話相談件数…70件 (8月)
- グループスーパービジョン研修  
8月17日(水) 参加者15名
- 全国キャラバン街頭活動in京都  
9月9日(金) 京都タワー前
- グリーフサポート委員会  
グリーフサポート研修  
8月27日(土)、28日(日) 参加者17名
- 啓発活動委員会  
8月1日(月) 参加者10名



### 今月のことば

鬱ぎを語ることで、鬱いでいるそのひとがみずからの鬱ぎとの関係を変えること、それをじっと待つのが聴くといういとなみである。

(鷺田清一『嘯みきれない想い』  
角川学芸出版)

## 寄付ご協力一覧 (敬称略・順不同) 2011年8月20日～9月20日

### ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	藤本弘信	清水咲子	伊東秀章
株式会社エクザム	冬野正晃	所淨伸	岡玲
葛野洋明	末武寛行	雲精寺	竹本了徳
寒香香代	瓜生智子	兒玉智文	安林晃信
北九州市・導教寺	佐々木顯信	えびの市・菟樂寺	西原華林
福井正典	田中萌子	北浦恵朗	安田智誠
樺戸郡・西光寺(西野和夫)	中山裕介	水島真理子	藤栄行儀
松山市・西福寺(二宮正晃)	中山時大	山本清子	山河彰子
藤本弘子	山口大輔	森田恵	林智康
大阪市・誓源寺(旭隆昭)	坂江真由美	霍野廣由	沢内道代
神戸市・光瑞寺	渡邊温子	孫工ひとみ	㈱建産コーポレーション
信行寺(浅野弘毅)	二宮朋生	草田みち子	調誠学
川崎潔	加茂真樹	岩佐一史	京都活動で資金にご協力くださった皆様

<p>●支援方法</p> <p>賛助会員 年間1口3,000円 寄付 金額は問いません 法人会員 年間1口10,000円</p>	<p>●会費・寄付金振り込み先</p> <p>郵便時間 ゆうちょ銀行[当座]100950-0-271875 他行間 ゆうちょ銀行[当座]099店 0271875</p>	<p>※模造紙、大判付箋、色マーカー、ホワイトボードマーカーなど研修会等で必要な物資の現物によるご寄付も大変助かります。使用可能で不要なものなどありましたら、お送りいただけます幸いです。</p>
--	--	---

**Sotto コメント**  
9月に入り、ようやく涼しい風が感じられるようになってきました。散歩途中に眺める萩のピンクのきれいなこと。そういえば、秋のお彼岸に食べる“おはぎ”は萩からきているそう…。ちなみに春のお彼岸は牡丹の時期だから“ぼたもち”というのだそうです。食べ物の名前もなかなか風情があるものですね。(N)

**発行**  
特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局  
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92  
TEL 075-365-1600  
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>  
E-mail [so-dan@kyoto-jsc.jp](mailto:so-dan@kyoto-jsc.jp)